＜次に引き継ぐためのスタート＞

＜川崎市＞／＜環境を考え行動する会＞

＜天野、阿部、村山、由良、麻場、門平＞

■活動概要

私たちの子どもや孫の世代に少しでもよい環境を残すため、できることから行動しようと、2007 年 8 月に発足した会です。翌年循生研に出会い、循生研方式のダンボールコンポスト普及活動に邁進して 12 年を経過し、実践者は 2240 人となりました。

メンバーも出発当初から 13 年分、年を取りました。責任をもって次に引き継いで閉じるための手立てを模索しようと、2 年の猶予期間をもって 2022 年 8 月に解散すると4月の総会で決めました。

■講座

2 月に川崎市主催の連続講座(ｱﾌﾀｰ)を参加者 33 人で行いました。その後、新型コロナウイルス感染拡大の為、講座依頼は少ないながら、看護施設や花壇グループなどからも依頼があり、参加者の人数制限など対策をとった異例の開催となりました。

障がい者福祉施設「もえぎの丘」では、しらかし園がこれまで請け負っていた基材の袋詰めや、ダンボールキットの組込＆配達作業等を引き受けたいとの意向で、まずは好きになってもらおうと入門講座を開きました。いつもはなかなか集中できない利用者さんも楽しんで聞いてくれました。

また、かわさき生活クラブ環境委員会からの依頼で「地域内資源循環をテーマに活動紹介＆ダンボールコンポスト講座」を開催。オンライン参加者も含め、生活クラブの若い参加者に広げました。

■生ごみ処理機等助成制度が実現

これまで、消耗品との位置づけで川崎市の生ごみ処理機等助成制度の対象にはならなかったダンボールコンポストにも、4 月よりコンポスト化容器として助成制度が適用されることになりました。

これまでの活動の成果です。

■川崎市の環境政策へのアクション

川崎市では、11 月に「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」と「プラスチック資源循環への対応方針」が策定されました。パブリックコメント募集に際し、説明と意見交換会を他団体と共催で開き 38 名という多くの参加者があり、環境への関心の高さがうかがわれました。

■菜園講座

第 4 期菜園講座は、藤原俊六郎先生を迎え 3 月にスタートしましたが、コロナ禍の中、先生の指導は最初と最後だけ。はぐるま農園と当会の事務局によるサポートと自主作業、作りたい品種に取り組む個人作付けの試みなどで、何とか収穫までこぎつけました。

■LFCコンポストを新たな層に展開

循環生活研究所から LFC（株）に展開されたおしゃれなバッグ型のLFCコンポストが、かなりの勢いで全国に広がっています。当会でも LFC(株)の「第 2 回堆肥を送って野菜をもらおうキャンペーン」に野菜だいすきファームと連携協力し、堆肥受け入れと野菜発送の部分を担当しました。

堆肥を使いきれない人への手立てが少し見えてきたように思います。

■今後に向けて

「もえぎの丘」では何回か作業練習を重ね、職員さんも利用者さんと一緒にキットづくりなどを担う自信を得たようです。

2 年後の発展的解散に向け、生ごみ堆肥化に意欲を持つ新たな人材発掘に今後取り組んでいきます。

2021.01.20.　記